

三位一体の主日 2020.6.7

人々に永遠のいのちを得させるために来た

ヨハネ3章 16-18節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。

説教

神と人間とはまったく違います。最近「神対応」などということばも聞きますが、どう逆立ちしようが人間が神になることはできません。永遠である神と寿命のある人間のあいだには深い溝があります。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。ヨハネ3:16

しかし、神は人間を救いたい。だからひとり子イエスを世に送りました。イエスを信じるという信仰を持つことを条件に、永遠のいのちを与え人間を救おうとしました。

神は永遠ですから、永遠のいのちとは神のいのちに似たようなものです。神にとって人々が救われるとは永遠のいのちを人間が持つことでした。そして、人間が永遠のいのちを得る条件はイエスを信じるという一点だけです。でも人々はなかなかイエスを信じようとはしません。

ところで、イエスを信じるとどのような変化が人間に現れるのでしょうか。光がこの世に来たことに気づき、それだけでなく光とともに歩みだします。わたしたちが毎週福音書をとおしてイエスの生涯を学ぶ理由、目的はそこにあります。イエスがこの世に光をもたらしたことに気づくこと、そしてイエスとともに歩みをはじめること、暗闇に生きている人間にこの変化をおこす

はたらきが聖霊のはたらきであり、別の言い方をすれば聖霊の照らしです。逆に言えば、どんなにイエスに詳しくなろうとも、福音書だけではなく聖書全体をいかに学ぼうとも、聖霊の照らし、はたらきなしにはイエスが世の光であることを悟ることはできません。

キリスト教、教会がはやくから気づき、ふるくから伝えられてきた父・子・聖霊なる三位一体の神の秘跡、とくに聖霊の照らしが、今日、ゆたかにわたしたちに注がれますように。
